



泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
七城公民館図書室 日曜日・祝日
旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき

桜の木の下で読書をしてみませんか？ コスモス



新着・お薦め図書

泗水図書館

孫と私の小さな歴史	佐藤愛子 著
獅子吼	浅田次郎 著
犯人に告ぐ2 闇の蜃気楼	栗井脩介 著
坂の途中の家	角田光代 著
子どもに歯ごたえのある本を	石井桃子 著
鉄道デザインの心	水戸岡鋭治 著
さかさ町	F・エマーソン・アンドリュース 作
わたしのいえ	カーソン・エリス 作

中央公民館図書室

日本人が知っておきたい和のしきたり	山本三千子 著
忙しいママのための超かんたん離乳食	太田百合子 監修
フクとマリモ	五十嵐健太 著
明治・金色シタン	畠中 恵 著
その女アレックス	ピエール・ルメートル 著
はなかつぱうみのぼうけん	あきやまただし 著
あかちゃんがわらうから	おーなり由子 著

七城公民館図書室

365日のプチプラコーデ	のりこ 著
人魚の眠る家	東野圭吾 著
おとなになるってどんなこと？	吉本ばなな 著
ハリーとうたうおとなりさん	ジーン・ジオン 文

旭志公民館図書室

はだれ雪	葉室 麟 著
みつえばあちゃんとボク	岡野雄一 著
ぼく、仮面ライダーになる！ゴースト編	のぶみ 作
リュックちゃんです	とよたかずひこ 作・絵

こんにちは！中央公民館図書室です♪

中央公民館図書室では、おはなし会や読み聞かせなどで多くの方が利用していただけるように、紙芝居や大型絵本の充実に力を入れています。

現在は紙芝居を約160冊、大型絵本を約80冊所蔵しています。紙芝居は本と同じく1人10冊まで借りることができます。大型絵本はおはなし会などで利用する人へのみ、3冊まで貸し出しています。借りられない人も図書室内で読むことができます。

人気の児童書もたくさん増えました。家族みんなで遊びに来てください。お待ちしております。



人気の絵本を多数取りそろえています

耳より情報

桜のメッセージ絵本を展示します

期 間 3月13日(日)～4月16日(土)
ところ 市内図書館(室)

住所や氏名が変わったときは 手続きが必要です！

用意するもの

- ・図書館利用カード
- ・新しい住所や氏名が確認できるもの

●図書館(室)窓口へお知らせください

- ・住所・氏名・電話番号が変わったとき
- ・市外に転出の場合で市内に通勤・通学していないときは図書館利用カードを返却してください。ご協力をよろしくお願いします。



ことしも世界に一つだけの絵本が出来上がりました。ぜひ見に来てください。

万句の里俳句会 1月句会

只一人一心不乱弓始

中路 郁子

朝の日を受けて色ます冬桜

田中ひさ子

生かされて生きる喜び老の春

稲田 羚子

千両の実のころろと笑ふかな

光本とよいち

数の子の異国の潮も味はひぬ

林 まつ子

せせらぎ俳句会 1月例会

切干しのちりちり縮む寒さかな

服部 静子

煤払ひ今年が最後と励む夫

藤本アツ子

成人の日の反戦の署名かな

五丁 義昭

階を両手引かれて初詣

寺本 和子

古湯殿磨けば清し初湯かな

藤本 邦治

旭志文芸教室俳句の会1月詠草

水仙の香り話の種になり

中尾ヨシコ

動かざる雲を浮かべて山眠る

芹川 蓉子

鞍岳も赤富士に似し冬夕焼

水谷 ミネ

慰鶴人恋うらしや庭先に

芹川のり子

肥後狂句桜会 1月例会

アラほんと 瘦せたら胸も萎んどうる

溜まつとる 上司肴に癒し酒

溜まつとる 田中 孝幸

ほどほどに 子供苛めは止めんかな

前進前進 外国にまでチェーン店

溜まつとる コンビニに緊急停車

溜まつとる 高倉 新米

お節料理 嫁の心のこもつとる

下流老人 水と空気で生きとらす

下流老人 井手 水光

下流老人 柏原 乗仏

下流老人 小崎 海美

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

下流老人 緒方 寛子

下流老人 寒さは苦手

下流老人 夏も苦手て言わしたが

下流老人 寒さは苦手

下流老人 火葬は真冬してはいよ

下流老人 山隈 好茶

雨に日照りふり回される農なれど努力が尊く実る我が道 緒方 正俊

花選別手伝い居れば九十四才の労働者が来たと我をば讃う 高木 精

遠近の子まご等相寄りそれぞれの話題が尽きぬ新春の宴 佐々 重弘

色づきし万両の小さき赤き実が槇の根方に花明りする 嶋田 晴美

新たなる年の初めを寿ぐも今だ覚めざる去年の思いは 宮本 淑子

昨日今日季節の移ろひ常ならず紅葉に咲き添ふ雪やなぎの花 松本 和子

狭庭辺のうす化粧なす草々に朝のひかり柔らかくあれ 梶原美智代

霜の田に一羽の鳥舞い降りて朝餉啄む姿さみしげ 岩本サヨ子

新年を十日も過ぎし厨にて作り忘れし金柑を煮る 前原 ゆみ

願い込め宝くじ買う年の暮れ「一億出た」の文字を横目に 堤 よしみ

初詣で米寿の吾の幸福と健やかなるを唯祈りつつ 安東 綾子

両の手に顔洗ひけり二十日ぶりの包帯の取れし朝は 山田 弘子

「里短歌会 1月詠草」

新たなる年の初めを寿ぐも今だ覚めざる去年の思いは 宮本 淑子

昨日今日季節の移ろひ常ならず紅葉に咲き添ふ雪やなぎの花 松本 和子

狭庭辺のうす化粧なす草々に朝のひかり柔らかくあれ 梶原美智代

霜の田に一羽の鳥舞い降りて朝餉啄む姿さみしげ 岩本サヨ子

新年を十日も過ぎし厨にて作り忘れし金柑を煮る 前原 ゆみ

願い込め宝くじ買う年の暮れ「一億出た」の文字を横目に 堤 よしみ

初詣で米寿の吾の幸福と健やかなるを唯祈りつつ 安東 綾子

両の手に顔洗ひけり二十日ぶりの包帯の取れし朝は 山田 弘子

「高齡者大学文芸部 1月歌会」

語りあふ久方ぶりの姉弟私には見せぬ夫の顔かな 林 まつ子

いつしかに古木となりし蠟梅も雪の鞍岳借景にして 村上さき江

寒空にひとときわ蒼く輝きて威厳を放つ鼓星かな 川口 幸臣

菊池野に五時を告げくる「新世界」飛行機雲を金糸に染める 安藤 則子

元朝の光きらめく菜畑の湯気噴き上げて霧と流るる 岩永 典子

菊池短歌会 2月詠草

朝々の散歩のわれに会う人の笑顔の言葉ここに沁みる 中原 光子

うすき陽に冬蝶さまふレノン忌よオノヨウコなる日本人妻 中川 愛子

